

チャペル週報

ただ、投獄と苦難とがわたしを待ち受けているということだけは、
聖霊がどこの町でもはっきり告げてくださっています。

(使徒言行録 20:23)



2006.10.10 ~ 10.13 No.15
関西学院宗教センター

チャペル・スケジュール

時間 10:35 ~ 11:05 場所 各学部チャペル

- 10月10日(火) 院 柳谷雄介(神学部大学院生)
神 渡邊宣博(M1)
文 田淵結(宗教主事)
社 上ヶ原ハビタットによるチャペル
法 上ヶ原ハビタットによるチャペル
経 人間を考える 杉山直人(経済学部教授)
商 地道正行(商学部助教授)
総 Joseph DeChicchis(総合政策学部教授)
-
- 10月11日(水) 神 『詩編』シリーズ 木ノ脇悦郎(神学部教授)
社 いのちを考える Alan Brady(社会学部教授)
法 Christian M.Hermansen(宣教師)
経 ハビタットの働きを覚えて 上ヶ原ハビタット
商 岩松正洋(商学部助教授)
理 「バルール」って何? 永田雄次郎(文学部教授)
総 Kwansei Gakuin Blessed Choir(ゴスペル)
-
- 10月12日(木) 神 キリスト教音楽にふれよう1
文 ハビタット(Habitat for Humanity)によるチャペル
法 上ヶ原ハビタットによるチャペル
経 人間を考える 舟木 譲(宗教主事)
商 辻 学(宗教主事)
総 オルガンコンサート(12:45-13:15,ランバスチャペル) Paul Hays(総合政策学部教授)
-
- 10月13日(金) 文 Andreas Rusterholz(宣教師)
社 いのちを考える 打樋啓史(宗教主事)
神 } 上ヶ原キャンパス学部合同チャペル
経 } 呉在植(韓国アジア教育院長)
商 } 於:ランバス記念礼拝堂
理 「前進のための後退」松木真一(宗教主事)
-

ランバス早天祈祷会 毎金曜日 午前8:20~8:40 於:ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)
10月13日(金)神学部のために 木ノ脇悦郎
総合政策学部早天祈祷会 毎水曜日 午前8:40~ 於 I号館312教室

「迷惑かけるの普通じゃきん！」

大 西 和 明

私は故郷で、30歳前の拒食症に悩んでいる女性を知っています。高校2年生のときからですから相当長い期間苦しんでいることになります。頑張り屋さんで、しかし、とても素直な女性です。高校入学時、学校の成績はトップだったようで、両親と祖父母とも同居でしたから家族の期待は相当に大きく、皆の期待にずっと応えようとしたようです。もし成績が下がったら、自分を支えてくれている周りの人達や家族に迷惑をかけるのではではないか、と思ったのかも知れません。（彼女の母親はそう言っていました。）

迷 惑

人に迷惑をかけさえしなければ、将来子供がどんな人間になってもよいと親はよく言いますが、いったい迷惑をかけないで私たちは生きられるのでしょうか。生きるとはお互い迷惑をかけ合うことです。迷惑をかけずに生きていると思うなら、これほど無反省な自惚れはありません。ですから目標とすべきは、迷惑をかけない人間ではなくて、迷惑を許し合える人間です。きびしい目を自分自身にそそいで、知らないうちにかけている迷惑に気づき、やさしい目を相手にそそいで、相手からかけられている迷惑をゆるす、そういう人間です。

（藤木正三牧師<1955関学神院卒>の説教の要約『神の風景』P54）

私がある帰省の折、彼女に会って、田舎弁で、「人に迷惑かけるの普通じゃきん！」と言ったようです。憶えてないのですが、私がこの文を読んでそれに共感し、強く記憶に残っていたからでしょうか、この場の文脈とは少し異なりますがそう言ったみたいです。その帰省から数ヶ月経って彼女から受け取った手紙には、「『人に迷惑かけるの普通じゃきん！』と聞いて、とっても気持ちが楽になりました。」とありました。

彼女は今<天使の会>という会を創って、同じ拒食症の人たちへ呼びかけ、自分のことを語り始めています。長い時間かかりましたが、苦しい状態をこのままでよいと受け取ることができ、苦しい状態の中で今自分が歩むべき希望を見出したのだと思います。何よりも生きる充実感を感じます。

「それから、わたしを呼ぶがよい。苦難の日、わたしはお前を救おう。（詩編50:15）

（総合教育研究室事務長）

K S Cチャペルオルガニストによる “ Autumn Concert ”

この度神戸三田キャンパスのランバス記念礼拝堂にパイプオルガンが設置されました。これを記念してコンサートを開催いたします。お誘い合わせの上ご来場ください。

と き：10月10日（火）12：45～13：25

ところ：ランバス記念礼拝堂（神戸三田）

秋の献血週間のお知らせ

学生会宗教総部では、秋の献血週間を実施いたします。提供していただく血液は、兵庫県赤十字血液センターでの検査を経て医療現場に届けられます。

皆様のご協力をお願いいたします。

期 間：10月10日（火）～13日（金）

受付場所：吉岡記念館

渡辺禎雄聖書型染版画展

渡辺禎雄氏は、日本独特の染色工芸の「型染」を布地だけでなく和紙にも応用し、日本古来からの民芸的技法から渡辺禎雄独自の「染色版画」を芸術的価値の高いものとして築き上げ、自由とユーモアに満ちた美術作品を制作している。氏の作品は目で見るものと心で感じとるものとの極めて精神的な出会いをもたらし、聖書の音信を新鮮に受け止める機会を与え、国内外から高い評価を得ている。大判版画33点、小品27点、カット18点

期 間：2006年10月16日（月）午後～19日（木）16:00

会 場：吉岡記念館ラウンジ

主 催：吉岡記念館

問い合わせ先：吉岡記念館事務室宗教センター（0798-54-6018）

吉岡記念館オープン記念講演会

渡辺禎雄 聖書版画をめぐって

講 師：田添 禎雄（日本基督教団姫路福音教会牧師）

と き：10月19日（木）17:00～18:20

ところ：西宮上ヶ原ランバス記念礼拝堂

問い合わせ：吉岡記念館事務室宗教センター

聖書の植物（9） ゲッケイジュ

南欧原産のクノスキ科ゲッケイジュ属の常緑中高木。学名は、*Laurus nobilis*で、*Laurus*は「緑」、*nobilis*は「高貴な」の意。ヘブライ語はオーレンで、聖書ではイザヤ書44:14に出る。ただし新共同訳では「樅の木」、口語訳では「香柏」と、新改訳と岩波訳では「月桂樹」と訳され、英語でもpineとかlaurelなどと訳され、同定が難しい。

月桂樹はイスラエルに自生し、カルメル山やガリラヤに多く見ることができる。大きなものは3mにも及び、葉は長楕円形でなめらかで革質をなす。雌雄異株で、雌株は開花後10月頃に黒紫の実がつき、大きなものはオリーブの実くらいになる。

上品な木として庭園樹に多く用いられ、そのひこばえから出た長枝を用いて月桂冠が作られ、マラソンの勝利者にかぶせたのは有名。それは、その葉の香ばしさと常緑性が繁栄のしるしと考えられたからであろう。葉はベイリーフと言い、スパイスとして煮込み料理やピクルスなどに用い、しばった月桂油は整髪料やソースの香料とされる。また、葉や果実は薬用として健胃や利尿、またリウマチなどに使われる。